

## 気を付けたい親の言葉【1／3編】

### 「どうして」と聞く限り子供の行動は変わらない

「子供には、何か困ったことが起きても、自分で考えて解決できるようになってほしいと思っているのですが、うちの子はすぐに私にどうすればいいのか聞いてきて、自分で考えようとしません。」これは、あるお母さんから寄せられたお悩みです。

考えて解決する力は、探究力と深いつながりがあります。何かを探究する上で、問題はつきもの。壁にぶつかったときに、それをどう解決するか、それを考える力がないと、探究対象を深めることはできません。

でも、実は日常生活の中に、子供の考える力を育てる機会はたくさんあります。しかも、子供の困った行動の中にその種はあるものです。

### 忘れ物が多い原因は親のある行動

たとえばお子さんが、忘れ物が多いとします。何度も言っているのに、直らない。今日も、体育があるはずなのに、体操服を玄関に置き忘れてる。そんなとき、皆さんだったらどうしますか？

もしかしたら、学校に届けますか？あるいは帰宅後を待ち構えて「まったく、どうしてあなたはいつも忘れるの！あれほど、夜のうちに用意しなさいって言ってるじゃない」と怒っているうちにだんだんボルテージが上がって、「そんなだらしのない子は、ろくな大人になれないわよ」と呪いをかけたり、「今度忘れ物したら、おやつ抜きだからね」とバツを与えたり……。でも、それで忘れ物をしなくなったという話はあまり聞きません。

忘れ物をした子供の気持ちになって考えれば、「どうして」と言われても、「忘れたから忘れた」のであって、当然のことですが、理由なんて答えられません。そもそも、理由が分かっていたら、忘れ物はなくせるはず。この「どうして」とか「なんで」という問いかけは、過去に向かって原因を追求する言葉。つまりマイナスの言葉かけです。

そして、言われた人は責められたと感じ、言い訳を考え始めます。

今回は、「忘れ物をゼロにする魔法の言葉」です。